



環境ニュース

2012 年 1 月 24 日
1 ページ

廃棄物

欧州委員会は、国の査察による監査の見直しおよび埋立廃棄物にかかる手数料や税のさらなる活用など、廃棄物法の実施における改善策を模索しています。

フランスのコンサルティング会社、Bio-Intelligence の調査によると、EU の廃棄物法を完全に実施することによって年間 720 億ユーロの節約が可能であると共に、主にリサイクル部門にて 40 万件以上の雇用を確保できるとのことです。現在、委員会では、EU 基準に基づく国の監査、ガイダンスおよびモニタリングの向上を検討しています。

この調査では、欧州環境機構(EEA)に対し、廃棄物法の実施における監視責任をより強化すること、およびガイダンスや国の査察による監査への支援を求めています。委員会内でもこれらの監査やその他の法関連の業務を実施し、EEA の科学的状況の維持に努めます。

<http://europa.eu/rapid/pressReleasesAction.do?reference=IP/12/18&format=HTML>

EU の大気質政策

1 月 19 日・20 日、大気汚染に関するテーマ別戦略を検討する第 2 回・利害関係者グループ会議が開催されました。加盟国にとって最も関心の高い問題としては、総合アセスメントの改善、本政策における首尾一貫性の確保、および超微細粒子や黒色炭素に対する取り組みが挙げられました。また、EU の大気環境基準とその他の法の一貫性を徹底することも早急に求められています。

http://ec.europa.eu/environment/air/review_air_policy.htm

<http://scic.ec.europa.eu/str/index.php?sessionno=12a1d073d5ed3fa12169c67c4e2ce415>

「私たちは、廃棄物を資源として捉える必要があります。その資源を地中に埋めるとは、あまりにも近視眼的な考えです。廃棄物管理やリサイクルは、経済成長と雇用創出に大きく貢献できるものです。現行法が適切に実施されていれば、コストの高い除去活動を行なう必要がなくなり、汚染問題や健康被害も未然に防げます。」

ジャネッツ・ボトクニック、欧州委員会環境委員

製品ラベル

1 月 20 日、ECHA(欧州化学品機関)は、化学物質の危険有害性を示す EU 独自のラベル表示に関する報告書を発表しました。この報告書では、これらのラベル表示の社会認識を高めるために啓蒙活動を行うこと、また、メーカー各社に対しては、製品の梱包形態によってラベル表示が見づらくなっていないか確認すべきと指摘しています。さらに、危険有害性を示すこれらのラベル表示が、各製品に有害性がないことを示す画像やエコラベルによって相殺されていないか確認する必要もあると述べています。

http://echa.europa.eu/en/web/guest/view-article/-/journal_content/37a61697-8fbe-4766-baa6-22fdad2ba1f6

地域委員会

地域委員会は、欧州委員会に対し、建物の修繕についての具体的な対策を提案すること、および 2013 年以降のエネルギー効率の向上を目的とした、欧州内の建物の修繕に関する複数年度予算に十分な額を割り当てることを要請しています。これらの対策は、エネルギー消費の少ない建物に対する助成関連の戦略と共に検討する必要があります。